

「魔王」300本分の寄付の使い道決まる 子供たちがお礼のメッセージ持参

ふるさと納税返礼品として出品された「魔王」300本分の売上が今年6月に白玉醸造(株)から寄付され、学校給食費と電子黒板導入費の一部に充てられました。11月25日、町内8小中学校の児童生徒が書いたお礼の手紙を代表3人が持参。「導入する電子黒板を活用して勉強を頑張ります」と感謝の思いと決意を伝えました。



大根占小6年の伊井彩花さんと谷口碧さん、錦江中2年の横山知弘さんが、各学校の児童生徒から預かった手紙やメッセージを代表して届けました。

「包丁は引いて薄く切る。寝かすと甘くなると教わった」と大原小5年の岩切和博くん。調理後の講和ではさらに知識を深めていました。



漁協青壮年部が「おさかな料理教室」 特産のカンパチを自分の手で調理

魚離れが進む子どもたちに、魚や海の魅力を知ってほしいと、漁協青壮年部が毎年開催している「おさかな料理教室」。今回は新型コロナ対策として3日間に分けて開催されました。11月27日には田代小と大原小の児童13名が指導を受けて、カンパチを刺身や唐揚げに調理し、新鮮なカンパチを満面の笑みで頬張っていました。

「まじめで几帳面な日本人はうつ病リスクが高い。特に男性は悩みを打ち明けられないので危険。まずは誰かに相談して」と訴えた金坂先生。



「人間関係と心の健康」テーマに講演 ありのままの自分を認めること

11月28日、「人間関係と心の健康」をテーマに、安田女子大学心理学部の金坂弥起先生を招いて自殺予防講演会を開催しました。講演では心理学を交えながら「0か1ではなく、その間で折り合いをつけることが大切。ストレス解消方は人それぞれ。まずは自分の癖を知ることから」と参加した190人の心に訴えました。

「いい肉の日」にちなんで舞桜豚ふるまい 仮屋ファームが豚肉40キロ提供

給食用食材に、(有)仮屋ファームから舞桜豚40kgが提供され、11月30日に町内8小中学校で「舞桜豚の甘辛丼」約600食がふるまわれました。神川小学校では4時間目を利用し、舞桜豚について学習。給食時には校内放送で、「豚肉を食べて寒い冬を乗り越えて」と代表の仮屋順平さんからメッセージが贈られました。



「やわらかくておいしかった!」と、終始笑顔で話してくれた神川小2年生の3人。左から石窪希珂さん、小園隆幸くん、福園仁芽くん。



やまなか協議会が悪疫退散願い 大輪の打上花火が石畳彩る

11月28日、午後6時30分からの5分間、花瀬川石畳で新型コロナの収束を願う花火が打ち上げられました。例年、8月に開催している「やまなか音楽会」も中止に追い込まれましたが、少しでも地域を盛り上げたいと広く告知をせず悪疫退散をテーマに開催。子どもたちが2,000本を超えるキャンドルを並べてアマビエを作成し、冬空を彩る花火を見上げ早期収束を願いました。

戦後75年 思いを馳せ冥福を祈る 戦没者・殉職者合同追悼式を開催

11月20日、町総合交流センターで行われた「戦没者・殉職者合同追悼式」に72名が参列し、黙とうを捧げて亡くなられた方々への冥福を祈りました。式辞では、木場町長が「戦争の悲惨さ、平和の尊さを次の世代に引き継ぐことが使命」と追悼の言葉を述べ、参列した遺族などが、献花台に菊の花を手向けて追悼しました。



献花台の前では涙ぐむ遺族も見られました。多くの犠牲の上に築かれた今の平和な暮らし。平和の尊さを後世に伝える必要があります。

防火パレード後に、和太鼓演奏も披露した法輪幼年消防クラブの園児たち。「私たちは火遊びをしません!」と誓いを立て、大きな声で宣言しました。



火災の発生しやすい季節を前に注意喚起 幼年消防クラブが沿道で呼びかけ

11月11日に法輪幼年消防クラブが、13日に田代幼年消防クラブがそれぞれ防火パレードを行い、火災の発生しやすい季節を前に注意を呼びかけました。法輪幼年消防クラブでは鎌田麗奈ちゃんを先頭に11名が参加。「火の用心」の横断幕を手に拍子木を打ち鳴らし、沿道の住民に大きなかけ声で力強く火災予防を訴えました。